１９「アランフェス協奏曲」

ベルリンフィル２，０１１年ヨーロッパコンサートをＢＳ放送で見た。マドリードのテアトロ・レアル（レアル劇場）で行われたものである。指揮はサイモン・ラトル。

演目は、

① 狂想曲「スペイン」-----シャブリエ
② アランフェス協奏曲------ロドリーゴ
③ 交響曲第２番------ラフマニノフ

ここで、書きたかったのはアランフェス協奏曲についてである。というのは、ギター奏者がフラメンコギタリストの「ファン・マヌエル・カニサレス」だったからだ。

アランフェスはジャンル分けでいうとクラシシックの曲で、それをフラメンコギタリストがどのように弾くかに興味があった。

クラシックギターとフラメンコギターの違いはいろいろある。

- まず、楽器そのものが違う。フラメンコギターはクラシックギターに比べて、軽い木材で製作され乾いた音がする。それに、表面にゴルペ板というプラスチックの薄板が貼られていて、それを叩きながら弾く。
- 楽器の構え方が違う。クラシックは右足を足台の上に置き、一段高くなった右ひざにギターを乗せる。奏者の両足は開いた状態となり、ギターはネックが高い位置に来て角度が付く。一方フラメンコのほうは、右足のくるぶしあたりを左ひざの位置に乗せ、片あぐらをかくようにして、右の太ももあたりにギターを乗せる。
- 奏法が違う。小指→薬指→中指････と次々に「ジャララーン」と弦を掻き鳴す、ラスゲアード奏法はフラメンコ独特のもの。それに親指で弦を掻き上げる、アルサプアといった奏法など多彩である。クラシックは軟らかくニュアンスのある音色を出すために、弦を弾く位置はサウンドホール（中央に開いた丸穴）付近が主だが、フラメンコは弦の端部、駒の近くを弾いて硬く乾いた音を出す。
- クラシックは弦楽器としての美しく変化に富んだ音色を追求する。一方フラメンコは弦楽器に打楽器の役目も持たせ、時々薬指で叩いてリズム音を出しながら演奏する。

クラシックは芸術性の高い格調ある音楽、フラメンコは民族音楽であり、より生活に根ざしたものという本来の違いがある。

さて、フラメンコギタリスト・カニサレスの演奏するアランフェスはどうだったのか？

クラシックにないフラメンコの多彩なテクニックを使い、とても新鮮な印象が残ったいい演奏だった。例えばラスゲアード、そしてピカードといって、速いパッセージを弾くテクニックが随所に見られ、いかにもフラメンコ・ギタリストの弾くアランフェスであった。

少し気になったのは、時々みられたグリッサンド（弦の上で指を滑らす）だが、カニサレスの好みなのかも知れない。

フラメンコ色の強い演奏でマドリードだから“あり”だけれど、ドイツやオーストリアでは受け入れられたかどうか？ しかし、すべてを通して堂々とした演奏でとても感動した。

フラメンコギタリストとしては、パコ・デ・ルシアの演奏を聴いたことがあるが、もう少しフラメンコ色を抑えた演奏だったように思う。　（２０１１．０６．１１）